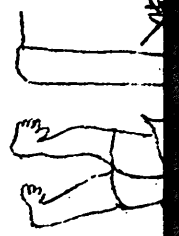


夜中にも
 百數十名は
 灯籠は三
 七の月こ
 ちを来公
 ける又兵
 高鳴して
 ちを来る
 又打たは
 何か起る
 下を来左
 人か
 呼出しが
 杖藜三名
 した処が
 人か
 人か



昔かへせと云つた。
 土此に對して赤子代表は甚し
 今度の同業はつた最機を貴
 社を以て大倒の意見なり
 日の上を責む者か来れば
 云遣しと日暮と二時存此は理
 為る事此は腰刀を對抗する為
 取は考る者、腰刀の字を去つて
 別れに来たんだ。
 諸君も、梅津は奴等、多クニ
 来、ちも来たのだ。
 梅津は早急に通、最長を
 つたんだ。
 合同の親父に梅津の陽に於ては
 見せやれ！
 梅津は、又来、つたのだ。
 何人だ光！
 暴勢を、夕、の、世！
 首切り、杜、植、下、及、猪、也！
 弟、機、團、造、才！

5. 9. 19
 1760

勞社第三一八三號

昭和五年九月十七日

警視總監 丸山 鶴吉

内務大臣 安達謙藏 殿
 社會局長 官 殿
 大阪神奈川 各府縣知事 殿
 兵庫 干 殿

隅田川合同運送株式會社 勞働爭議二關スル件

(第三報)

勞働者側八十音初甲、賃物三隻介、事業、主、引、廣、張、是、罷、業、ス、
 業者、の、事、業、主、側、之、誠、意、ヲ、以、テ、解、決、方、法、ヲ、講、ス、ル、機、構、ニ、シ、テ、引、續、キ、交、渉、中
 四十音、船、夫、ハ、火、島、製、鋼、多、議、院、後、示、誠、運、動、ヲ、計、畫、ス